

輸送、建設その他の作業が順調に遂行し、2月20日「ふじ」は帰途につきました。

その途中、砕氷航行中に右スクリューのプロペラ4枚を折損し、氷に囲まれて動けなくなることがありましたが、外国砕氷船の救援を仰ぎながら22日後に自力で脱出しました。

3月29日に南アフリカのケープタウンに寄港した後、19日遅れて5月9日東京港に帰着しました。

南極観測船の歴史

南極観測船が初めて運用されるようになったのは、1957年(昭和32年)からになります。

1957年から1962年(昭和32年～昭和37年/第1～6次)までは、海上保安庁により、それ以降は海上自衛隊により運用されています。海上自衛隊に籍を置く艦艇であるため、船内には10丁を超える銃器および実弾を保管する武器庫があり、海賊やテロ行為に備えています。

初代：宗谷(1957～1962)

基準排水量：約3,800t

全長全幅：82.3m・12.8m

最大速度：12.1ノット

厚さ0.4mの氷の中を航行可能

乗員：67名

お台場船の科学館で公開中



2代目：ふじ(1965～1983)

基準排水量：約5,250t

全長全幅：100m・22m

最大速度：17.2ノット

厚さ0.8mの氷の中を3ノットで航行可能

乗員：200名・隊員：35名

物資輸送能力：500t

名古屋ガーデン埠頭で公開中

